

# 平成 23 年度 政務調査研究報告書

会派名	会派 みらい	支出伝票No.	No.
事業名	バイオe c o エネルギー調査		
事業区分 (該当へ〇)	①研究研修 ②調査 ③資料作成 ④資料購入 ⑤広報・広聴 ⑥その他		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

バイオマス発電は最近よく聞く言葉である。市では次期焼却場にも生ごみメタンガス発電を検討していると聞く。同様な施設がないか探したが該当する施設が今回の視察先方面になく、原料が生ごみではないが木質原料を使用した民間の発電施設を視察先にし、当地域の森林資源との関連を研究した。

## (2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時	訪問先・主催者等
	平成 23 年 7 月 28 日 10 時 00 分から 12 時 00 分	白河市 株式会社白河ウッドパワー 発電所

報告内容・実施したこと  
感想まとめ・市に活かせること等

### 1、視察先の概要

東北新幹線新白河駅からタクシーで 40 分、木質専焼バイオマス発電所。

発電出力：11,500 ｷﾛﾜｯﾄ、敷地面積：22,000 ㎡、燃焼種類：木質チップ

運転開始：2006 年 10 月

※燃料は地域で発生する木質資源を原料に作られる。土木・建設現場で発生する伐根材・支障木・製材所や造園業、林業の場から出る端材・剪定僕などを、燃料供給会社で選別粉碎し購入。

カーボンニュートラル、資源の循環とも言える環境にやさしいe c oな発電所と言える。

RPS 法「電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法」により事業化

### 2、視察内容

(発電タービンの前で)



木質チップを燃焼し熱交換器で蒸気を発生、蒸気タービンを回し発電。

#### <コスト概要>

建設費：50 億円、年間メンテナンス費：2 億円、燃料費 3000 円 / t

使用量 300 t / day = 1000t / M 概ね年間 12 万 t

#### <採算性>

売電価格が大きく鍵を握る、現在の価格だと維持レベルとのこと。他に課題は燃料になるチップの確保及び品質の均一性、チップは半径 100 ｷﾛﾐﾃｰ以内を目処に調達。

※実用性には自然エネルギー買取りや燃料コストなどが鍵になるが一朝一夕ではない。 以上